《過去の主な事故/クレーム情報》

事故発生年月 (西暦)	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無 (調理機器…調理油過熱防止装置/ 温水機器…不完全燃焼防止装置)	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年12月	開放式小型湯沸器	PH-500A(10)		○	有り	使用者が30分くらいお湯を出し続け、シーツを洗っていたところ、目まいがし気分が悪くなり就寝した。翌朝、病院で一酸化炭素中毒(軽症)の診断を受けた。 使用者は ①不完全燃焼防止装置がたびたび作動しその都度器具が停止していたが使用していた。 ②点火直後に黒煙が発生している事が認知できており異常な状態であったが使用していた。 ③室内に設置してあった警報機がたびたび作動鳴動していたことを認知していたが、警報機を自ら取り外していた。 ④器具本体正面に換気が必要と警告表示していたが設置してあった換気扇を自ら取り外していた。 ⑤保安点検業者から器具の買換えを勧められていたがそのまま使用していた。 警察は使用者の使い方に問題があり、当該機器には問題が無い事から、事件性がないと判断し調査終了したとの事。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年12月	ガスこんろ	PA-DR35SEWFA-2L		○	有り	使用者が煮込み調理中に火を消し忘れて外出している間に、換気扇付近から出火しているのを近隣の方が発見し、消防に通報した。 ①当該機器背面および右側面外側の過熱変色が著しい②器具内後方の配線溶融状態が著しい③機器にガス漏れは認められない④ゴムホースが焼失していた。 以上の調査結果より、ゴムホースが何らかの要因で過熱焼損を受け、ガスが流出したことで拡大に至ったと推測され、消防は器具に問題はないとの見解で機器の調査は終了。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年12月	ガスこんろ	PA-DR37F-2	○		有り	使用者が、当該機器右コンロ(調理油過熱防止装置なし側)で、卵焼き用のフライパンを使い調理中、目を離した間にそのフライパンから火が立ち上がり、消火器で火を消したとのこと。 消防は、器具に不備はなかったとして調査終了。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年12月	ガスこんろ	IC-SE300 (以下不明)	不明		有り	使用者がカレーを調理中、その場を離れている間に火災に至ったとの事。 消防は、当該機器に不備はなかったとして調査終了したとのこと。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年12月	ガス貯湯湯沸器	PS-622D-1		○	無し	店舗への搬入業者が、当該機器からの出火を発見し消防に通報した。 消防によると、当該機器内の火元と特定された箇所(接続部)は、取付業者による脱着に伴った接続ネジの締め付け不良でガス漏れが起こり引火したとの見解で、機器自体に異常はなかったとして調査終了したとのこと。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。			○ (脱着時の不備)	—

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年12月	ガスこんろ	PA-SE600		○	有り	当該機器の消し忘れによる失火で、こんろの下が燃え、屋根裏まで火が上がり家人が消火をし就寝したが、その後再燃し全焼に至ったとのこと。コンロ台は自作の木製台であった。消防によると、調査結果の詳細は公表できないとのことであったが、問題は初期消火にあり、器具が原因である可能性は少ないとの見解。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。			○	詳細はこちら
2007年12月	ガスこんろ	IC-4800F	不明		無し	当該機器のグリルで魚（さんま）を焼いている最中に、グリルの排気口から火が上がってきた為、座布団で消火したとのこと。 使用者は、グリル受け皿に水を入れずに使用し、又、日常の清掃をせず、受け皿には油が蓄積していたことにより、消防では使用者の誤使用が原因で、機器に異常はないとして調査終了した。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年12月	ガスこんろ	PKS-410B		○	無し	使用者が、当該機器（調理油過熱防止装置なし）のコンロで、天ぷら鍋を火にかけたままの状態で、目を離した間に出火し座布団をかぶせて消火したとのこと。 消防は、器具に不備はなく、使用者の取扱不注意が原因との見解で調査終了。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年12月	ガス瞬間湯沸器	PH-24A	○		無し	使用中に機器の下に置いてあった食器水切り用容器（樹脂製）に火が着いていることに気付き消火したとのこと。 当該機器は約15年使用されていたが、ダイヤフラムが局部的な経年劣化で亀裂に至り、漏れが生じ引火したと推察したが、過去に同類の事象はなく多発性はないと判断した。	○（経年劣化）			—
2007年12月	ガスこんろ	PD-D38WFA-L	○		有り	グリルで魚を焼いていたところ、グリル内で引火しグリルガラスが割れた。 清掃不良により油受け皿に溜まった油に引火した事によるものと判断。		○		詳細はこちら
2007年12月	ガスこんろ	PD-1MH-2		○	無し	機器とガス配管の接続工事ミスによるガス漏れが原因で軽傷を負った。		○（設置工事不良）		—
2007年12月	ガスこんろ	IC-E600CP-L	○		有り	グリルで魚を焼いたままの状態でその場を離れた間に、グリルから出火し付近の壁を一部焦がした。消防は使用者の不注意と判断。		○		詳細はこちら
2007年12月	ガスこんろ	IC-SE300B-R	○		有り	フライパンで炒め料理をしていたところ、右側面の壁が焦げて煙が上がった。壁は可燃材であったが、当該機器との離隔距離が約3cmしかなく、防火措置がとられていない火災予防条例に反した設置であった。		○		詳細はこちら
2007年12月	ガスこんろ	PA-D305WG		○	有り	グリルで魚を焼いていたところ、グリル内で引火した。 消防は清掃不良により油受け皿に溜まった油に引火した事によるものと判断。		○		詳細はこちら
2007年12月	ガスこんろ	IC-330HF-1		○	無し	調理油過熱防止装置のついていない当該機器で、天ぷら調理中にその場を離れた間に出火した。消防は機器に原因はないと判断。		○		詳細はこちら 詳細はこちら

事故発生年月 （西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無 （調理機器…調理油過熱防止装置／ 温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使い いただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・ 不注意または設置不備	原因不明 または 調査中	
2007年12月	ガスこんろ	IC-3300F	○		無し	グリルの消し忘れによりグリル内から出火し、ゴムホースの一部を焼損した。消防は清掃不良により水受け皿に溜まった油に引火した事によるものと判断。		○		詳細はこちら
2007年12月	ガスこんろ	PA-DR37F-1		○	有り	需要家によると、使用中に機器後方から炎が出たとのこと。 現品を調査した結果、ゴム管口のビスが緩んでおり、ゴム管口シール用Oリングが一部炭化し亀裂が入っていた。また、事故発生前日にガス用ゴム管を交換したということもあり、その際にゴム管口のビスが緩められたと推測。		○ （設置不備）		—
2007年12月	ガスファンストーブ	PG-1000EF-W	○		有り	使用中に気分が悪くなった。ガス事業者の調査では、使用者の換気が不十分であったことが原因と判断。		○		詳細はこちら
2007年11月	ガス炊飯器	PR-100DF		○	無し	点火の際、操作を数回繰り返したところ、遅点火を起こし、点火確認窓に顔を近づけていた為、点火確認窓から瞬間的に溢れた炎で軽傷を負った。取扱説明書及び弊社ホームページで注意喚起している行為。		○		詳細はこちら
2007年11月	ガスこんろ	IC-4600F-2	○		無し	木造一部2階建て約120平方メートルの内約50平方メートルを焼いた。けが人はなかったとのこと。 消防は、需要家がグリルで魚を焼き、消し忘れをして外出していた間に火災に至ったとし、機器には問題はなかったとの見解で調査終了したとのこと。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年11月	ガスファンヒーター	PG-210F		○	有り	使用中に機器後方から火が出て消火した。 当該機器にガス漏れは無く、経年劣化したガスホースのひび割れがあり、接続部からガス漏れしたことが原因である。		○		—
2007年11月	業務用ダクト直結型 瞬間湯沸器	PH-161MD(1)	○		無し	点火した際、遅点火により機器とダクトの連結部付近から火が出た。 ガス供給事業者は、使用者の操作手順間違いが原因との見解。		○		詳細はこちら
2007年11月	ガスこんろ	DA-801KF	○		無し	グリルの消し忘れにより、グリル水受け皿に溜まっていた油脂が発火し火災に至った。消防は使用者の不注意によるものと判断。		○		詳細はこちら
2007年11月	ガスこんろ	IC-E600CP-L		○	有り	当該機器のグリル庫内で発火しグリルのガラス扉が割れたとのこと。 消防は、使用者がグリルを使用した後の消火の際に、間違って別箇所のボタンを押していた為、グリルが消火されておらず、庫内に溜まっていた油が発火し火災に至ったということで、使用者の取扱不注意が原因として調査終了した。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年11月	ガスこんろ	PA-DR37F		○	有り	当該機器で天ぷら調理中に出火し、コンロ周りの壁及び天井が一部焦げた。消防は、使用者が調理油過熱防止装置(センサー)がついていない側のこんろで天ぷら調理中に、油を火にかけたままその場を離れた取扱不注意が原因で、機器に異常はないとして調査終了した。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年11月	ガスこんろ	IC-E680B(F)-R	不明		有り	住宅が全焼し、2名が軽い火傷を負ったとの事。 消防によると、使用者がグリル使用中にその場から離れたことによる、取扱不注意が原因として調査終了した。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年11月	ガスこんろ	IC-460HB	不明		無し	木造2階建て住宅の1階台所の壁など約17平方メートルを焼いた。 消防は、当該機器に不備はなく、使用者がグリルで魚を焼いている最中に買い物に出かけ、その場を離れた取扱不注意が原因として調査終了した。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年11月	ガスこんろ	IC-4800F		○	無し	グリルの消し忘れにより、グリル水受け皿に溜まっていた油脂が発火し火災に至った。消防は使用者の不注意によるものと判断した。		○		詳細はこちら
2007年11月	ガスこんろ	PKD-DR351-WFA-R		○	有り	グリルの消し忘れにより、残っていた食材が発火した。操作ボタンで消火したが火が残っていたので、消火器で消した。		○		詳細はこちら
2007年11月	ガスこんろ	PA-E600FE-L	○		無し	使用者によると、グリルを空焼きした後、庫内に残っていた水滴を拭き取っていた際、庫内で手を切ったとの事。原因は調査中。		○		詳細はこちら
2007年11月	ガスこんろ	PD-SE31LA		○	有り	使用者によると、大バーナーにて調理中に爆発音と共に、コンロの引き出しとシステムキッチンの引き出しが飛び出てきたとの事。 現品調査の結果、シール用Oリングの損傷による漏れが確認できたものの、不具合に至った状況は再現性がなく原因の特定はできず、過去に同類の事象はなく極めて偶発的で多発性はないものと判断した。			○（原因不明）	—
2007年11月	ガスこんろ	PA-D37SGFA-R		○	有り	当該機器の調理油過熱防止装置(センサー)のついていない側のこんろで、鍋を火にかけたまま外出。その後、部屋から煙が出ているのを近所の方が発見し、消防に通報した。出火はなく、鍋が焦げたのみで、消防は使用者の不注意によるものと判断した。		○		詳細はこちら
2007年11月	ガスこんろ	PA-M336WA-1R		○	有り	グリルの受け皿を掃除中、切抜き部で右手の中指を切ったとの申し出あり。当該部品の申し出箇所については加工上の問題は無く、又、申し出の操作をしても受傷する状況にはならず、再現はできなかった。			○（再現せず不明）	—
2007年11月	ガスこんろ	IC-3100F	○		無し	使用者によると、当該機器でお湯を沸かし消火した約10分後に警報器が鳴り、機器下から出火に気づき消火器で消火したとのこと。ガス会社の調査によると、ソフトコードがグリル底部に接した状態にあり、グリル使用に伴う熱影響によりソフトコードが炭化しガス漏れに至ったと推定した。また使用者は、グリル使用時に水受け皿に水を入れないで使用していたとの事。		○		詳細はこちら
2007年10月	ガスこんろ	IC-30（以下不明）		○	無し	調理油過熱防止装置のついていない当該機器で、天ぷら調理中にその場を離れた間に出火した。消防は使用者の不注意と判断。		○		詳細はこちら 詳細はこちら

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年10月	ガスこんろ	IC-SE300（以下不明）		○	有り	木造2階建て住宅約110平方メートルを全焼、車庫兼物置を半焼し、住宅の裏山の一部を焼いた。消防は、当該機器の調理油過熱防止装置（センサー）のついていない側のこんろで調理中に、使用者がその場を離れたことが原因として調査終了。尚、取扱説明書で「火を付けたままの、移動・外出・就寝禁止」と注意喚起をしている。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年10月	ガスこんろ	IC-E700GF-R		○	無し	使用者が当該機器グリルを使用した後、操作ボタンを押し間違えていた為消火されていないままであった。それに加え、ガスホースが当該機器の下を通って接続されていた為、グリル下部分のガスホースが、長時間の熱影響を受け焼損し、漏れたガスに引火し拡大に至ったとのことで消防は使用者の誤使用として調査終了。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年10月	ガスふろがま（給湯付き）	FH-1600MS	○		無し	使用者の申し出によると、シャワーを30分程使用した後、追い焚き運転をし外出した。その後外出中に、給湯器付近より火災（小火）が発生したとの事。 消防は、当該機器の排気口の前にダンボールが置いてあったことが原因で、機器運転時に引火したものであり、機器に異常は無かったとして調査終了した。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年10月	ガスこんろ	不明	○		不明	油の入った鍋を火にかけたままその場を離れ、戻ってきたら炎があがっていたとの事。消防は、当該機器の調理油過熱防止装置（センサー）のついていないこんろで調理中に、使用者がその場を離れたことが原因として調査終了。尚、取扱説明書で「火を付けたままの、移動・外出・就寝禁止」と注意喚起をしている。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年10月	ガスこんろ	IC-E700CF-L		○	有り	消防によると、センサーなし側こんろにて、油の入ったフライパンを火にかけたまま外出したことが原因ということで調査終了。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年10月	ガスこんろ	PA-3000M（以下不明）	○		無し	消防によると、ｸﾞﾘﾙで調理中に出火したとのことであるが、機器については不備がなかったということで調査終了。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年10月	ガス湯沸器	PH-509B	○		有り	当該機器を点火したところ、機器下部のガス接続部から漏れたガスに着火し、機器の基盤ケース（プラスチック製）を焼損した。ｶﾞｽ供給事業者の調査結果、使用者が機器を取替えた際、強化ガスホースの接続部にパッキンを入れ忘れた事が原因との事。また、当該機器には、異常ないとの事。		○（無資格者の設置工事ﾐｽ）		詳細はこちら
2007年10月	ガスこんろ	KM-601F-L	○		有り	使用者によると、当該機器使用中、こんろ下部より出火したとのこと。 現品調査の結果、器具下方の何らかの可燃物が発火した事により、本体部品が焼損したものと推測されたが原因は不明。			○（原因不明）	—

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年10月	ガスこんろ	PD-D733NWGAV-R		○	有り	使用者の申し出によると、大バーナー一側（内炎式）を点火したところ、火が立ち上がり、髪の毛及びまつ毛を焦がし、目に火傷（軽傷）を負ったとの事。 ガス供給事業者が点検・調査の結果、申し出の症状は再現せず、又、機器に異常もなかった。尚、取扱説明書には「こんろの点火操作時や使用中はバーナー付近に顔を近付けない、また、使用中はバーナー付近に触れない」という旨の注意喚起をしている。			○ （再現せず不明）	詳細はこちら
2007年10月	ガス湯沸器	PH-5KB		○	有り	当該機器を半年ぶりに使用したところ、本体の上からススが出たとの事。機器周辺に焼損跡は認められなかった。公共の製品調査機構は、機器がｶﾞｽこんろの50～60cm上方の壁に設置してあったため油汚れが付着した、約20年間使用していたため水圧自動弁のｽﾋﾟﾝﾄﾞﾙ部が通水状態で固着した。また、ススが発生した原因については、使用者が半年ぶりの使用とのことで給水元栓を開かないで点火操作をしたために、水圧自動弁が開状態であったため一時的に空焚き高温となり機器に付着していた油汚れが発火した。その後、機器の過熱防止装置が作動して機器を停止したと推測。また、ｶﾞｽこんろの上方に機器を設置したことについては、火災予防条例に適合しない。		○		詳細はこちら
2007年10月	ガスこんろ	IC-33SEF-R	○		有り	ｸﾞﾘﾙ庫内に残っていた油脂が燃焼して煙が上がった。ｶﾞｽ事業者は、使用者が当該機器のｸﾞﾘﾙを予熱しようと点火したが、点火したことを忘れたのが原因との見解。		○		詳細はこちら
2007年10月	ガスこんろ	PA-DR37F-R		○	有り	当該機器後方から出火した。ｶﾞｽ販売店が調査したところ、ゴム管口付近よりのガス漏れとの事。当該機器が客先に設置後、ゴム管口を脱着するような扱いがあり、その際、正しく取り付けなかった為に不具合に至ったと考えられる。		○ （ｺﾞﾑ管の取付時のﾐｽ）		詳細はこちら
2007年9月	給湯器	FH-201AWD		○	有り	当該機器を設置した家屋において、床下の柱が焦げており、付近に当該機器用ﾘﾓｺﾝ配線があった。警察に確認結果、配線（銅線）に溶融の痕跡があったことから、銅線が加熱したことにより発火したとみられるが、銅線が加熱した原因については特定できずとの事。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。			○ （原因不明 ）	―
2007年9月	炊飯器	PR-200MT		○	無し	当該機器未使用時、ガスコードの継手部分から火が出ているのに気づき消火した。ガスコード継手部に焼損跡があったが、機器のガス漏れ、本体内部の焼損は認めず。		○ （ｶﾞｽｺｰﾄﾞ継手の取付時のﾐｽ）		詳細はこちら
2007年9月	業務用ダクト直結型瞬間湯沸器	PH-161MD	○		無し	当該機器の点火ﾎﾞﾀﾝを数回押しﾊﾟｲﾛｯﾄﾊﾞｰﾅｰに点火しようとした際、機器の左側面ﾊﾞﾌﾗｰ部より炎が見えたとの事。当該機器はｶﾞｽの漏洩はなく、また、機器に焼け焦げ等の跡は殆ど無し。尚、ﾊﾟｲﾛｯﾄﾊﾞｰﾅｰの点火操作を数回繰返しても、ｶﾞｽが機器内に滞留する量は極めて少なく溢れ着火することは無いと考えられる。			○ （不明）	―
2007年9月	ガス湯沸器	PH-5BRE-T	○		有り	当該機器の点火ボタンを押したところ、点火しなかったため再度押すと、機器より火が出て、使用者の方が髪の毛を焦がし、顔に火傷を負ったとの事。			○ （再現せず不明）	詳細はこちら

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年9月	ガスこんろ	PD-1F	不明		無し	当該機器を使用中に火災が発生したとの事。消防は、調理油過熱防止装置(センサー)がついていない当該機器で、天ぷら鍋をかけたまま外出したことによる、取扱不注意が原因として調査終了。		○		詳細はこちら
2007年9月	ガス湯沸器	PH-24A	○		無し	遅点火により溢れた炎がﾀﾞｸﾄ内の埃に引火。原因は経年により(88年製)ﾊﾟｲﾛｯﾄﾉｽﾞﾙの孔が詰まったため。取扱説明書には、日常点検として「ﾊﾟｲﾛｯﾄﾊﾞｰﾅｰの炎が小さくなっていませんか」という旨の注意喚起をしている。	○（経年による埃の堆積）			詳細はこちら
2007年9月	ガス湯沸器	PH-5TF		○	有り	当該機器の給水口部から水漏れ、原因は配管工事時にﾈｼﾞを緩めて締め忘れ、その後、水圧で外れたと推測。		○（修理ミス）		―
2007年9月	ガスこんろ	IC-3300F		○	無し	台所付近から出火して、木造モルタル平屋建て約215平方メートルが全焼した。消防は、使用者の取扱不備が原因として調査終了。ｸﾞﾘﾙ使用中長時間その場を離れていた間に、こんろ後方の出窓に置かれていた可燃物に燃え移り火が広がったとみている。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年8月	ガスこんろ	IC-4800F	不明		無し	当該機器のこんろを使用する際に、誤ってｸﾞﾘﾙの点火ﾎﾞﾀﾝを押してしまい、ｸﾞﾘﾙ庫内に残っていた油脂や魚の燃えｶｽが燃焼し、排煙口から炎があがったとの事。消防は、使用者の取扱不備が原因として調査終了。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年8月	ガスこんろ	IC-3300F	不明		無し	木造モルタル2階建て住宅約70平方メートルが全焼。消防は当該機器に接触していた壁（ベニヤ板）に機器の炎が低温着火したことが原因として調査終了。尚、取扱説明書にて「周囲に可燃物のある場合、トッププレートより上の側面および後面は15cm以上離す」という旨の警告をしている。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年8月	ガスこんろ	PA-3100CF		○	有り	ｸﾞﾘﾙでししゃもを焼いていたところ、ｸﾞﾘﾙ内に付着した油脂が燃焼し、ｸﾞﾘﾙ排気口から炎が上がり、機器の上方にあった換気扇と壁が焼けた。消防は、当該機器に問題はなく使用者の消し忘れで、取扱不注意として調査終了。尚、取扱説明書には、「ｸﾞﾘﾙ使用後は必ずお手入れする。」 旨の注意喚起をしている。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年8月	ガスこんろ	IC-E600CP-L	不明		無し	ｸﾞﾘﾙに火を点けたまま隣の部屋にいたところ、ｸﾞﾘﾙ内に付着した油脂が燃焼し、ｸﾞﾘﾙ排気口から炎が上がり、使用者が消火した。消防は使用者の消し忘れで、取扱不注意として調査終了。また、ｸﾞﾘﾙ受け皿に水を入れず使用しており、日常の清掃をしていなかったとの事。尚、取扱説明書には、「ｸﾞﾘﾙを使用する時は、ｸﾞﾘﾙ水入れ皿に必ず所定の水量の水を入れ、使用中は常に水のある状態を保つ。ｸﾞﾘﾙ使用後は必ずお手入れする。」 旨の注意喚起をしている。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年8月	ガスこんろ	PA-S33CFA		○	有り	台所付近から出火して、木造平屋の母屋と隣接する納屋の約240平方ﾒｰﾄﾙを全焼した。消防は、当該機器に不具合はなく、使用者の取扱不注意が原因として調査終了。調理油過熱防止装置(センサー)のついていないｶﾞｽこんろ側で天ぷら調理後、ｶﾞｽこんろを消火してその場を離れたつもりが、消火されておらず油に引火し火災が発生したとの事。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年8月	ガスこんろ	IC-3100CB		○	有り	当該機器で天ぷら調理中に火災が発生したとの事。警察は、当該機器の調理油過熱防止装置（センサー）のついていないこんろで、天ぷら鍋を火にかけたままその場を離れた、取扱不注意が原因として調査終了。		○		詳細はこちら
2007年8月	ガスこんろ	PA-E600CP-L	○		有り	左側こんろを使用中に点火ﾎﾞﾀﾝ部より炎がでたため、水で消火。使用中に多量の煮こぼれがありﾊﾞｰﾅｰの炎孔が一時的に閉塞され、ｶﾞｽが逆流してﾊﾞｰﾅｰ口元部に炎が溢れたと推測。		○		詳細はこちら
2007年8月	湯沸器	PH-24A	○		無し	水抜栓兼安全弁から熱湯が出て、手に軽い火傷を負った。水抜栓兼安全弁は、機器内に高い圧が生じた場合の安全弁の役割もあり、支障のない所へ排水できるように付属部品としてﾋﾞﾆｰﾙﾎｰｽを付けている（取扱説明書でも注意喚起している）。尚、当該機器は、ﾋﾞﾆｰﾙﾎｰｽが取り付けられていなかった。		○		詳細はこちら
2007年8月	グリル付き二口こんろ	PKD-35EG-L	○		有り	当該機器が収納されているキャビネットの扉を開けて物を取り出そうとした際に、当該機器底面のビス用バーリング孔(当該機器には使用していない下向きの孔)の端面に右手甲が接触し擦り傷を負った。受傷したビス用バーリング孔の周囲にﾍｺﾐを付ける事により手に触れにくい状態に設計変更予定。		○		—
2007年8月	開放式小型湯沸器	PH-5TB(10)		○	有り	使用中に、ﾌｰﾄﾞ部あたりから一瞬、大きな炎がでた。ｶﾞｽの漏洩は無く、点火・燃焼状態も正常であり、また、機器内部も埃等の付着無し。炎が上がった原因は不明。尚、設置上の問題として、上方の離隔距離が火災予防条例では10cm以上必要のところ7cmであった事、また、換気扇が無かった事。工事説明書には、離隔距離と換気扇の設置方法について警告している。			○（不明）	詳細はこちら
2007年8月	グリル付き二口こんろ	IC-E680B-R		○	無し	こんろ側使用中に、後面が焼損。当該機器にｶﾞｽの漏洩は無く、燃焼状態も正常であった。外観は機器後方から炎が吹き付けられたと考えらるゴム管接続口辺りからグリル本体の後部にかけての後面に焼損跡があった。また、使用されていたゴム管と当該機器との接続部にはｶﾞｽの漏洩はなし。以上より、ゴム管とガス元栓との接続に不備がありガスが漏洩し引火したと推測。			○（機器に関わりなし）	—
2007年8月	グリル付き二口こんろ	PA-3200CEF-1	○		有り	当該機器(グリル)の下にゴムホースが回り込んでいた。グリルで魚を焼いている時、水入れ皿内の脂・調理物が燃えグリル庫内の異常過熱が生じ、ゴムホースがこれに接触して亀裂が入りガスが漏洩して引火したものと推測。更に、取扱説明書には「グリルを使用する時は、グリル水入れ皿に必ず所定の水量の水を入れ、使用中は常に水のある状態を保つ」・「ゴムホースを機器の上や下に通さない」という旨の警告をしている。		○		詳細はこちら

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年8月	業務用ダクト直結型瞬間湯沸器	PH-161MD	○		無し	種火をつけた状態で、給湯栓を開けてもメインバーナーに着火せず、数回繰返すうちに小爆発的な音がし、排気フード部の中に炎が見えたため消火器で火を消した。原因は油煙・埃の類が機器内部・排気フード部に流入し経年で堆積し、メインバーナーへの着火が遅れ、何度か繰返すうちに器具内部にたまったガスに引火し、その影響で排気フード内の油脂類・埃に火が移ったものと推測。また、取扱説明書にて、「排気フード部より油がたれていないか」等の日常点検をお願いしている。		○（清掃不備）		詳細はこちら
2007年8月	開放式小型湯沸器	PH-509A	○		有り	点火した時に一瞬、側面にある給気口から炎がでて、機器内部の多量の埃と配線の一部が焦げた。ｶﾞｽ通路部のｶﾞｽ漏洩は無く、遅点火や消火遅れも無し。また、当該機器外部（排気部、背面、底面）と内部（給気口付近）に油脂を含んだ埃を確認した。さらに、内部の埃の一部に焦げ跡を確認した。原因は、当該機器内に多量の油脂を含んだ埃があった事により、これらが一瞬点火時に炎のあふれに引火したと推測。取扱説明書には、日常点検のポイントに「給気口・排気口を異物や埃で塞いでいないか」という旨の注意喚起をしている。		○		詳細はこちら 詳細はこちら
2007年8月	グリル付き二口こんろ	PA-33MHB		○	無し	木造平屋住宅から出火し全焼。消防は、使用者が調理過熱防止装置（センサー）が付いていない当該機器で天ぷら調理中、その場を離れた間に引火したとして調査終了。		○		詳細はこちら
2007年8月	グリル付き二口こんろ	IC-77SPX-L	○		無し	二階建て店舗兼住宅から出火し、一階台所の天井と壁の一部を焼損。消防は、使用者が調理油過熱防止装置（センサー）が付いていない当該機器で天ぷら油を加熱中、台所を離れた間に引火したとして調査終了。		○		詳細はこちら
2007年8月	一口こんろ	PD-1EHB		○	無し	使用者の申し出によると、使用中に小爆発音がして点火ツマミが熱により溶けたとのこと。 現品を調査したところ、漏れ等の異常は認められず原因の特定に至らなかった。			○（原因不明）	—
2007年8月	グリル付き二口こんろ	IC-77SPX-L	○		無し	こんろを点火時にバーナー以外のところから炎が出た。70～80才位の一人暮らしの男性で料理はあまりせず、特に左こんろ側は使っていなかったとの事。ｶﾞｽの漏洩は無し。点火操作をしたが、メインバーナよりガスは出るが、点火パイロットバーナが点火しないため火移りしない状態。 点火パイロットバーナ内に「くもの巣」が張られていたため、正常に点火作動せずメインバーナ以外の箇所から炎が出た。		○		—
2007年8月	業務用ダクト直結型瞬間湯沸器	PH-161MD	○		無し	当該機器を使用中に排気フード部辺りから炎が上がったとの事。現場で点検した結果、当該機器はガスの漏洩無く、点火・燃焼状態も正常であった。また、すでに使用者が、油受け皿、及び排気フード周辺の油脂と埃を清掃しており、炎の形跡や機器内の油脂、埃等の付着状態を確認できなかった。尚、取扱説明書には、油受け皿の定期的な清掃、及び「排気フード部より油がたれていないか」等の日常点検をお願いしている。			○（不明）	詳細はこちら
2007年7月	ガスこんろ	不明	不明		不明	当該機器のｸﾞﾘﾙで調理中に出火し、木造2階建て住家の台所約10平方メートルを焼き、使用者の方2名が足に軽い怪我を負った。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年7月	ガスこんろ	IC-3300F-R		○	無し	ｶﾞｽが部屋に充満しているところに、当該機器を点火しようとして爆発し、1名の方が重傷（全身に火傷）を負い、窓や建具、天井などが破損。警察は、当該機器には問題ないと結論付け、原因は、ガスの漏洩量などから、二口タイプのガス元栓の当該機器に接続していない側からのガス漏洩との見解。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。			○（当該機器に関わりなし）	—
2007年7月	グリル付き二口こんろ	IC-4600F-2		○	無し	右標準こんろの点火ﾎﾞﾀﾝ部分から発火して、消火器で消火した。多量の煮こぼれが生じた事により、バーナー炎孔が一時的に塞がれ、バーナー口元部から炎があふれたと推測。尚、取扱説明書にて、使用中は機器から離れず正常に燃焼している事を確認頂く旨を注意換気している。		○		詳細はこちら
2007年7月	グリル付き二口こんろ	PA-E600CP-L		○	有り	ｸﾞﾘﾙ使用中に、当該機器に接続されていたｶﾞｽﾎｰｽから炎が出た。当該機器にｶﾞｽの漏洩は無く、燃焼状態も正常であった。ｸﾞﾘﾙ庫内の油脂分が燃焼し異常過熱され、当該機器の下にあったｶﾞｽﾎｰｽが触れ亀裂が入りｶﾞｽが漏洩して引火したと推測。尚、取扱説明書には、「ｶﾞｽﾎｰｽは機器の下を通さない」・「ｸﾞﾘﾙ使用後は必ずお手入れする。」 旨の警告・注意をしている。		○		詳細はこちら
2007年7月	炊飯器	PR-200DF		○	—	点火窓に顔を近づけて点火操作をした際、点火窓から溢れた炎によりヤケド（ごく軽症）した。日常的に炊飯後器具を元栓から取り外し移動していたとのこと。検品結果、通常状態では点火状態は正常であったが、ホースを外すことで、ホースの中のガスが希薄になっており、1回目では着火しなかった。また、点火窓に顔を近づけることは、取説にて警告している行為。		○		詳細はこちら
2007年7月	一口こんろ	PA-1B	○		無し	赤火の状態で燃焼を続け、点火つまみ部分から炎が出た。原因は、使用中にバーナ内部に入った煮こぼれが経年（20年間使用）により腐食を進行させ、粉・小塊状の錆となり、ガス通路を塞ぎ、ﾊﾞｰﾅｰの口元から漏洩したｶﾞｽに引火したもの。また、取扱説明書には、「使用中には時どき正常に燃焼していることを確かめてください。」という旨の注意喚起をしている。		○		—
2007年7月	二口こんろ	PA-T026RA（PA-E25CF）	○		有り	点火ツマミが溶融。再現テストでは、受け皿を左右逆にした状態で1時間ほど燃焼すると、今回の事故状況に似た現象が再現した。ガス供給事業者へも報告済。		○		詳細はこちら
2007年7月	グリル付き二口こんろ	IC-3301GF	○		無し	二階建て店舗兼住宅から出火し、1階住宅部分を焼損。消防は、調理油過熱防止装置（センサー）のついていない当該機器で、天ぷら鍋をかけ忘れたのが原因として調査終了。		○		詳細はこちら
2007年6月	ガスこんろ	IC-E700GF-R		○	無し	需要家がコンロを使用した際、無意識のうちにグリルも点火していた為、調理後、コンロは消したがグリルは点火の状態のまま外出していた。その後、家人がグリル排気口から炎が出ていることに気付き消火器で火を消したとのこと。 消防は取扱ミスと判断したとのこと。		○		詳細はこちら

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年6月	ガスこんろ	不明		○	無し	集合住宅の1室を全焼し、使用者が首や足に軽い火傷を負った。消防は、使用者が当該機器のこんろ側（調理油過熱防止装置(ｾﾝｻｰ)の装備無）でｽｰﾌﾟを煮ていて消し忘れ、付近に新聞紙等の可燃物があり引火したとして調査終了。 その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年6月	ガスこんろ	IC-4600F	○		無し	当該機器のグリル（遮炎装置の装備なし）で魚を焼いている時、魚が燃えてグリル内の脂カスに引火し、当該機器の付近が焼損した。消防の見解は、長年にわたって堆積された魚脂への引火によるもので、使用者の「取扱不注意」として調査を終了。その後、製品に起因する事故でないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年6月	ガス炊飯器	PR-60DF	○		無し	炊飯中に当該機器と接続しているゴム管の接続部から漏えいしたとみられるガスに引火し、当該機器外面、当該機器に接続しているゴム管及び周辺の壁の一部等を焼損。尚、ガス供給事業者は、当該機器本体にガス漏洩がない事を確認している。その後、製品に起因する事故でないと判明し、重大製品事故から除外。			○（当該機器に関わりなし）	―
2007年6月	ガスこんろ	IC-E701F-L		○	無し	消防の見解は、調理油過熱防止装置（センサー）が装備されていない当該機器で天ぷら油を火にかけ、飼い犬に餌をやるために外に出た間に、燃え上がり木造平屋建て住宅78平方ﾒｰﾄﾙを全焼した。その後、製品に起因する事故でないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年6月	グリル付き二口こんろ	PA-DR37F-2		○	有り	消防の見解は、当該機器の調理油過熱防止装置(ｾﾝｻｰ)のついていないこんろ側で、天ぷら鍋をかけ忘れ、台所の換気扇、天井、及び隣接する浴室の天井が焼損した。		○		詳細はこちら
2007年6月	二口こんろ	GT-2210（PA-2200CEF）		○	有り	木造平屋の住宅1棟が全焼。使用者が背中などに軽い火傷を負った。消防は、当該機器の損傷が激しく、使用されていたかどうかは不明との結論 。			○（不明）	―
2007年6月	グリル付き二口こんろ	PA-36CS-9R	○		有り	当該機器にやかんをのせ点火後、当該機器の背面に接近してあった換気扇のｽｲｯﾁ(紐)を入れようとした時に衣類に着火した。取説には、バーナー付近に近づかない旨の注意喚起をしている。		○		詳細はこちら
2007年6月	グリル付き二口こんろ	PA-D336WF-L			有り	点火装置付近から発火したとの連絡を受け点検したところ、配線が焦げていた。		○（修理ミス）		―
2007年6月	グリル付き二口こんろ	IC-E680B-R	○		有り	左コンロ(ｾﾝｻｰ付)でじゃがいもを煮て火力調節レバーを強付近から中火程度に絞った時、一瞬大きな炎につつまれた。検品結果、機器内部にｶﾞｽの漏洩はなく、燃焼状態も正常。強いて原因を推定すると、ガスホース接続部より約0.2㎥のガスの漏洩があれば、同等の現象となることが確認された。			○（不明）	―

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年6月	グリル付き二口こんろ	PKS-410B	○		無し	中火でｿｰﾒﾝをゆでていた時、突然火が大きくなった。検品結果、ｶﾞｽの漏洩はなく、燃焼状態も正常。また、再現ﾃｽﾄ結果、煮こぼれが生じたとき、煮こぼれした反対側から一時的に炎が鍋の上端あたりまで上がる現象が認められた。		○		―
2007年6月	業務用焼物器	GYK-20A		○	―	焼き鳥を焼いていたところ、突然ガラスが「ボン」と大きな音とともに割れ、左手の親指と人差指の間の甲の部分を裂傷した。何らかの原因でｶﾞﾗｽの表面にうち傷、擦り傷、等ができその影響を受けて強度が劣化し割れたと推測。			○（不明）	詳細はこちら
2007年6月	グリル付き二口こんろ	IC-E801V6-R	○		無し	使用約3年でｸﾞﾘﾙ扉のｶﾞﾗｽ破損。何らかの原因でｶﾞﾗｽの表面にうち傷、擦り傷、等ができその影響を受けて強度が劣化し割れたと推測。			○（不明）	詳細はこちら
2007年6月	グリル付き二口こんろ	IC-E700CF-L		○	有り	ｸﾞﾘﾙ取手のﾋﾞｽを3本はずし分解して洗っていたところ、ｽﾃﾝﾚｽ板で指を裂傷。取説で分解禁止としている。		○		詳細はこちら
2007年6月	グリル付き二口こんろ	PKS-410B		○	無し	調理中に当該機器に敷いてあったこんろシートのはがしていない紙が燃えた。消防の見解は、当該機器にｶﾞｽ漏れはなく、油を入れた時、こぼれた油がこんろにひいてあったｼｰﾄの紙に至り、炎が上がったとのこと。		○		詳細はこちら
2007年5月	ガス炊飯器	PR-200J		○	―	ﾘﾌｫｰﾑ中の住宅で、風通しのよい廊下にて8kgLPｶﾞｽ容器に当該機器を接続して炊飯中、炊飯開始から約15～20分後に当該機器のレﾊﾞｰと後方に隣接した壁（当該機器との距離4～5cm）が焼損。消防の調査結果は、当該機器に不備はなく、使用者が強風の環境下で当該機器を使用したため、炎が機器内部に引火したとの事。その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら 詳細はこちら
2007年5月	ガスこんろ	PA-10HS-2		○	無し	10kgLP容器に調整器を付け当該機器に接続していたところ(消防の調査では、当該機器の器具栓は閉状態)、この間でｶﾞｽが漏えいし(漏えい部位は調査中)、何らかの着火源により引火、爆発。警察の見解は、当該機器に不備がなく、また、関わりが無かったとの事。 その後、製品に起因する事故ではないと判明し、重大製品事故から除外。			○（当該機器に関わりなし）	詳細はこちら
2007年5月	ガスこんろ	PKS-410B	○		無し	当該機器（調理油過熱防止装置なし）に天ぷら鍋をかけ、火を点けたまま外出後出火し、ｳｵｰﾙｷｬﾋﾞﾈｯﾄ・壁が焦げた。消防は、消費者の消し忘れが原因と推察。その後、使用者の火の消し忘れによる火災であることから、製品に起因する事故でないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年5月	ガスこんろ	IC-E600F-L		○	無し	木造2階建て住宅から出火して、台所など約5平方ﾒｰﾄﾙを焼き、家人1人が顔などに軽い火傷を負った。消防は、消費者が当該機器のｸﾞﾘﾙで魚を焼いていたところ、消し忘れたのが出火原因として調査終了。その後、使用者の火の消し忘れによる火災であることから、製品に起因する事故でないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年5月	ガスこんろ（グリル付き）	IC-KM（以下不明）		○	無し	市販の天ぷら油固形剤により固形化された油（鍋の中）が、ｶﾞｽこんろ上で炎上。消防は、使用者の消し忘れとの見解。その後、使用者が火を消し忘れたため火災に至ったと思われ、製品に起因する事故でないと判明し、重大製品事故から除外。		○		詳細はこちら
2007年5月	開放式小型湯沸し器	PH-5BR		○	有り	台所に当該湯沸器と他社ｶﾞｽこんろがあった。消防より当該湯沸器の検品依頼があったが、焼損の程度が著しく、原因の特定に至らず、消防の調査は、原因不明で調査終了した。その後、当該機器に不具合はなく、また、出火元ではないことから、製品に起因する事故でないと判明し、重大製品事故から除外。			○（当該機器に関わりなし）	詳細はこちら
2007年5月	グリル付き二口こんろ	PA-SE600		○	有り	左右ｺﾝﾛに鍋を加熱中、約5～10分後に左ｺﾝﾛ奥より出火。機器の下ほぼ全面に焼損跡があり、機器の下に敷かれた新聞紙が燃えたと推測。取扱説明書では、可燃物を機器の下に敷かないよう警告している。また、引火した原因は特定できず。		○		詳細はこちら
2007年5月	ガスこんろ	不明	○		無し	ビルの店舗から出火して、同店舗の天井や壁を焼き、店員1名が煙を吸い軽いけがを負った。消防は、調理油過熱防止装置（センサー）のついていない当該機器で、揚げ物調理中、使用者が、こんろの火を消すのを忘れて眠ってしまったのが原因として調査終了。		○		詳細はこちら
2007年5月	開放式小型湯沸器	PH-E55D		○	有り	無資格の消費者が当該機器を取り付けた際、ｶﾞｽの接続に指定品でないｺﾞﾑﾎｰｽを使用し、接続部からｶﾞｽ漏れ出火して、本体にすすがついた。（消防不出動）		○		詳細はこちら
2007年5月	ガス湯沸器	PH-16CBF		○	無し	使用約15年で、機器内部にススや埃の付着詰まりと燃焼室内の断熱材の剥がれがあり、燃焼のさまたげとなり、局部的に過熱され機器背面及び壁が焦げた。		○		詳細はこちら
2007年5月	グリル付き二口こんろ	IC-E600F-L			無し	グリル排気口から火が出て、壁のタイルにススが付いた。原因は、消費者がこんろボタンと間違ってグリルボタンを押した可能性があると誤使用を認められ、また、ｸﾞﾘﾙ内のお手入れがされておらず、油汚れが残っていたとの事。		○		詳細はこちら
2007年5月	グリル付き二口こんろ	PA-D336WFA-R		○	有り	ｸﾞﾘﾙで魚(鯖)を焼いていたところ、その場を離れたため、ｸﾞﾘﾙ内で発火。また、ｸﾞﾘﾙ扉を開けたため炎があふれ出し、消火器を使用し鎮火。ﾌﾚｰﾑﾄﾗｯﾌﾟ付のためｸﾞﾘﾙ排気口からの立炎はなし。		○		詳細はこちら
2007年5月	開放式小型湯沸器	PA-405SE	○		有り	側面の給気口に密着してあったタオルと換気扇スイッチ用のひもを焼損（消火の際に指先に軽度の火傷を負った）。ｶﾞｽ供給事業者の見解は、湯沸器側面のスリットから炎又は熱気が溢れ、機器に密着していたタオルが燃焼するに至ったものではないかとのこと。		○		詳細はこちら

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年5月	瞬間形ガス湯沸器（先止式）	PH-20CWQF		○	無し	リモコンで42℃の設定にしていたが、設定以上の温度のお湯が出て、手に火傷。給湯栓を絞り過ぎて使用したため、リモコンの設定温度以上のお湯が出たものと思われる。給湯栓の通常通りの開閉では、正常運転したことを確認。		○		詳細はこちら
2007年5月	二口こんろ	PA-E25CF-1		○	有り	ﾄｯﾌﾟﾌﾟﾚｰﾄを外して掃除していたところ、こんろ本体の枠のｺｰﾅｰ部分で手を裂傷した。		○		詳細はこちら
2007年5月	ガスふろがま（給湯付き）	FH-1600MS		○	無し	使用したつもりがないのに、当該機器が作動して異臭がし、熱くなった。原因は、消費者が、浴室内のタイルのひび割れを補修中、誤ってリモコンのスイッチを入れたため、一時的に空焚きしたものと考えられる。		○		—
2007年4月	グリル付き二口こんろ	IC-332S-1		○	無し	アルミ箔製の受け皿を使用していたこんろより発火炎上。ﾄｯﾌﾟﾌﾟﾚｰﾄには煮こぼれの跡あり、また、器具内部から出火した形跡は確認できず、受け皿に溜まった脂から出火したと考えられる。		○		詳細はこちら
2007年4月	グリル付き二口こんろ	IC-330HF-1		○	無し	こんろの五徳の爪が破損し煮物鍋が傾き汁がこぼれて火傷を負った。原因は、経年劣化による五徳支え板の腐食と考えられる。	○			—
2007年4月	強制給排気式ガスふろがま（給湯付き）	FH-24APDT		○	無し	熱交換器から水漏れ。原因は、経年劣化で、通水ｺｲﾙ間のﾛｰ付け部に熱応力によりｸﾗｯｸが生じたと考えられる。	○（経年劣化）			—
2007年4月	開放式小型湯沸器	PH-5BW		○	有り	遅点火により子供の顔の火傷と髪の毛が焼けた。			○	詳細はこちら
2007年4月	瞬間形ガス湯沸器（先止式）	PH-1600CMF	○		無し	給湯器の給水配管のフレキと塩ビ配管の接続部に穴あきが有り、そこから水漏れしたもの。		○（施工不備）		詳細はこちら
2007年4月	ガス炊飯器	PR-150J		○	—	受け皿の上に異物（樹脂系のもの）を置いたまま炊飯した為、発火したものと推測。		○		詳細はこちら
2007年4月	半密閉式CF式ガス瞬間湯沸器	PH-101	○		無し	フロントカバーの一部焼損。ガス栓は開状態だが、器具は近年未使用とのことで点火操作はしていないとのこと。（調査のため器具を取り外したとき、ねずみの巣があり、3匹出てきた。）器具の下側においてあった焼物器から立ち上った油煙が、器具の下側に貼ってあったガムテープにたまり引火したもの。			○	—
2007年4月	ガス炊飯器	PR-100EF		○	—	炊飯完了しても自動消火せず、器具（外胴部）のみ焼損。			○	—
2007年4月	グリル付き二口こんろ	IC-E680F-R		○	有り	こんろ使用中に、受け皿に敷いてあったアルミ箔に溜まった油に引火し、炎が立ち上がり、ガス元栓のつまみが溶けた。		○		詳細はこちら
2007年4月	開放式小型湯沸器	PH-5TB(10)		○	有り	器具が油まみれで排気口に溜まった油が過熱されて煙が出て、部屋中が真っ黒くなった。		○		詳細はこちら 詳細はこちら

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年4月	業務用ダクト直結型瞬間湯沸器	PH-161DHS		○	有り	湯沸器に立てかけてあったモップの一部が、器具給気口から器具内に入り込み焼損。可燃物を器具に接触させていたもの。		○		―
2007年4月	半密閉式CF式ガス瞬間湯沸器	PH-131(1)		○	無し	別荘において、長期未使用後の保安点検をしていた際に、ガスが希釈していた為、遅点火して器具側方の窓のカーテンを溶かした。		○（点検時の不注意）		―
2007年4月	開放式小型湯沸器	PH-5BRE-T	○		有り	取り付け業者の施工不備により、ガス漏れが発生し、湯沸器直下の流し台シンクに有ったプラスチック製の三角コーナーが一部焼損。取付業者が施エミスを認めている。		○（施工不備）		―
2007年4月	瞬間形ガス湯沸器（先止式）	PH-160CP	○		―	閉栓中の器具から発煙、原因不明。	○（経年劣化）			―
2007年4月	グリル付き二口こんろ	IC-E680F-R		○	有り	ｸﾞﾘﾙ排気口近く（上方5-10cm）にガスホース及びホースバンドが有った為、過熱され焦げた。		○		詳細はこちら
2007年4月	開放式小型湯沸器	PH-5TB(10)		○	有り	ガスホースの劣化で、ガスホースからの漏れが原因により、器具の背面壁及び天井の一部焦がして、湯沸器左上の蛍光灯焼損。		○（ｶﾞｽﾎｰｽの劣化）		―
2007年3月	ガスこんろ	不明		○	無し	台所から出火して壁や天井を焼いた。使用者がてんぷら鍋に火を付けたまま10分ほど目を離した間に発火した。消防は、調理油過熱防止装置（センサー）のついていない当該機器で、てんぷら鍋に凝固剤を入れ、火をつけたまま放置したのが原因として調査終了。		○		詳細はこちら
2007年3月	三口グリル付きビルトインこんろ	不明	不明		不明	消防によると、ｾﾝｻｰ無しこんろで天ぷらを揚げており、油に火が移り台所周りを少しススで焦がしたとの事。また、使用者が当該機器を消し忘れたのが原因として調査終了。		○		詳細はこちら
2007年3月	開放式小型湯沸器	PH-508B		○	有り	器具の配線とボタンが焦げた。			○	―
2007年3月	瞬間形ガス湯沸器（先止式）	PH-10CPFH	○		無し	経年劣化により、給湯器本体フロントカバーが変色。	○			―
2007年3月	グリル付き二口こんろ	IC-4800F		○	無し	こんろの左右使用しており、左側を消火時「ボボボ」と音がして、火柱が上がった。			○	―
2007年3月	グリル付き二口こんろ	IC-4800F	○		無し	こんろ消し忘れにより中華鍋の油に引火。		○		詳細はこちら
2007年3月	開放式小型湯沸器	PH-5KB		○	有り	配管工事業者によるユニオン交換の際、施工不備により、湯沸器以外のガス配管設備でガス漏れ発生。湯沸器使用中に湯沸器に引火。		○（施工不備）		―
2007年2月	ガスふろがま（給湯付き）	FH-1600VD	○		―	経年劣化により熱交換器の排気通路部の詰まり及び熱交換器内の断熱材が脱落し燃焼不良。			○	詳細はこちら

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2007年1月	瞬間形ガス湯沸器（先止式）	PH-16LXFS		○	有り	倉庫保管時に機器内の残水が凍結して通水できず空焚き状態になった。	○			詳細はこちら
2006年12月	開放式ストーブ	PG-650S		○	有り	朝一番点火して、しばらく離れてから戻ったときに消火していたので、再点火したところ機器以外の箇所からのガス漏れにより爆発着火。			○	詳細はこちら
2006年12月	グリル付き二口こんろ	IC-3100F		○	無し	グリルを点火したことを忘れ庫内の脂分が過熱され燃えた。		○		詳細はこちら
2006年11月	グリル付きビルトインこんろ	PKD-DR351FA-R	○		有り	グリル下バーナーのバーナーカバーが外れたまま使用して、バーナーが赤火燃焼となり器具に不具合が生じた。		○		－
2006年10月	半密閉式CF式ガス瞬間湯沸器	PH-16BFA		○	無し	シャワー使用中に水になった為、再点火を数回繰り返したところ遅点火した。		○		－
2006年10月	グリル付き二口こんろ	IC-E601CF		○	有り	機器を設置する際に、天板が外れ機器が落下。その際、思わず手をかけ指を裂傷。		○		－
2006年10月	グリル付き二口こんろ	PA-E600CP		○	有り	うなぎを焼く為グリルを使用。しばらくして家の電気が落ちたことで気が付く。（グリルの消し忘れと思われる。）		○		詳細はこちら
2006年9月	開放式小型湯沸器	PH-5BW		○	有り	ガス元栓を閉めており、未使用の状態なのに湯沸器左下付近が焼けた。			○	－
2006年9月	グリル付き二口こんろ	PA-3000MF	不明		無し	消し忘れにより台所のガスこんろ付近が焼けた。		○		詳細はこちら
2006年10月	グリル付き二口こんろ	IC-E600GP-R		○	無し	天ぷら鍋をかけたまま、その場を離れた為出火。		○		詳細はこちら
2006年7月	瞬間形ガス湯沸器（先止式）	KPA-616FFHL（PH-16QLXTSL）	不明		有り	不着火（故障）の為修理。使用者が体調不良。	○			－
2006年9月	グリル付き二口こんろ	PA-D335W-L	不明		有り	ガス台上面を掃除する際、機器の下端で受傷。	○	○		－
2006年6月	グリル付き二口こんろ	IC-E705NF-1L		○	無し	ガスこんろにフライパンをかけ油を加熱中にその場を離れた為、出火。		○		詳細はこちら
2006年7月	三口グリル付きビルトインこんろ	PD-DM73WGV		○	有り	あげルックのついていない側で中華鍋をかけたまま放置した為、鍋の油が過熱し出火。		○		詳細はこちら
2006年5月	開放式小型湯沸器	PH-508B	不明		有り	使用中操作ボタン部分が溶融。	○			－
2006年7月	グリル付き二口こんろ	PA-3100WF-L	○		無し	点火状態にしたまま外出し、外出中に出火。			○	詳細はこちら
2006年6月	ガスふろがま（給湯付き）	FH-201AWD		○	－	発見前日の夜、給湯器機器内で爆発して機器フロントカバーが吹き飛んだ。（翌朝近所の人が発見。）			○	－
2007年5月	グリル付き二口こんろ	IC-330HF-1	不明		無し	天ぷら鍋をかけたまま放置した為、過熱し出火。		○		詳細はこちら
2006年5月	ガスこんろ	不明	不明		不明	点火状態のまま五徳の上で市販の焼き網を放置した為、周囲の可燃物に引火して出火。		○		－
2006年5月	グリル付き二口こんろ	IC-460HB	不明		無し	天ぷら油をかけたまま放置した為、出火。		○		詳細はこちら

事故発生年月（西暦）	品目	型式機種	ガス種		安全装置の有無（調理機器…調理油過熱防止装置／温水機器…不完全燃焼防止装置）	事故クレーム内容	事故原因			安全にお使いいただくために
			都市ガス	LPガス			製品起因	誤使用・不注意または設置不備	原因不明または調査中	
2006年4月	ガス炊飯器	PR-20MTS	不明		—	受け皿の上にしゃもじを置いたまま炊飯した為、ガスの炎で燃え出し発煙。		○		—
2006年3月	グリル付き二口こんろ	IC-E600F-L		○	無し	天ぷら鍋をかけたまま外出した為、出火。		○		詳細はこちら
2006年1月	ガスこんろ	PA-10HSF		○	無し	天ぷら鍋をかけたまま放置した為、出火。		○		—
2006年1月	グリル付き二口こんろ	IC-E700GF-R		○	無し	天ぷら鍋をかけたまま放置した為、出火。		○		詳細はこちら
2006年1月	グリル付き二口こんろ	IC-335HF	不明		無し	こんろ上部にかけていた布巾が落下し出火。		○		—
2005年12月	グリル付き二口こんろ	IC-4800F	不明		無し	グリルで魚を焼いたまま眠ってしまった為、出火。		○		詳細はこちら
2005年7月	瞬間ガス湯沸器（先止式）	PH-20CW	不明		無し	約10年間の使用により熱交換器の排気通路部が詰まり燃焼不良。		○		詳細はこちら
2005年9月	グリル付き二口こんろ	PA-3ANK	不明		無し	こんろの上で鍋を熱してロウを溶かす作業をしていたが、目を放した間にロウが過熱して出火。		○		—
2005年8月	三口グリル付きビルトインこんろ	PKD-DR35FA1	不明		有り	あげルックのついていない側でてんぷら鍋をかけたまま放置した為、過熱して出火。		○		詳細はこちら
2005年8月	グリル付き二口こんろ	IC-3100F	不明		無し	天ぷら鍋をかけたまま放置した為、過熱して出火。		○		詳細はこちら
2005年8月	グリル付き二口こんろ	IC-S86F-L	不明		無し	天ぷら鍋をかけたまま放置した為、過熱して出火。		○		詳細はこちら
2005年8月	グリル付き二口こんろ	IC-KM48F-L	不明		無し	天ぷら鍋をかけたまま放置した為、過熱して出火。		○		詳細はこちら
2005年2月	グリル付き二口こんろ	IC-3100CH	不明		無し	天ぷらを調理中に引火して天ぷら火災発生。		○		詳細はこちら